

2019年度 TMSナビ ストレスチェックの結果に関する調査

TMSナビ導入団体及び企業のストレスチェック 有効回答率は88.9%

団体及び企業のメンタルヘルスケア体制の構築を総合的にサポートし、

4年連続して高い回答率を維持

(対象者235,991名中、有効回答209,810名)

1.導入企業全体の高ストレス者割合

➤ 女性は男性よりも高ストレス者割合が高い

集団名	対象者数 (人)	有効回答数 (人)	高ストレス者数 (人)	高ストレス者割合 (%)
全体	235,991	209,810	29,324	14.0
男性	182,727	161,521	21,972	13.6
女性	53,264	48,289	7,352	15.2

2.年代別高ストレス者割合

➤ 30代の高ストレス者割合が高い

年代	対象者数 (人)	有効回答数 (人)	高ストレス者数 (人)	高ストレス者割合 (%)
20代	43,418	39,262	5,920	15.1
30代	55,183	49,306	8,188	16.6
40代	65,564	58,374	8,842	15.1
50代	53,229	47,145	5,440	11.5
60歳以上	16,186	13,640	736	5.4

3.残業時間別高ストレス者割合

➤ 残業時間と高ストレス者割合は比例する傾向にある

残業時間	有効回答数 (人)	高ストレス者数 (人)	高ストレス者割合 (%)
残業時間 (0～10時間)	52,841	5,852	11.1
残業時間 (11～20時間)	32,234	4,392	13.6
残業時間 (21～30時間)	31,402	4,674	14.9
残業時間 (31～40時間)	24,475	3,887	15.9
残業時間 (41～50時間)	18,027	3,215	17.8
残業時間 (51時間以上)	11,419	2,071	18.1

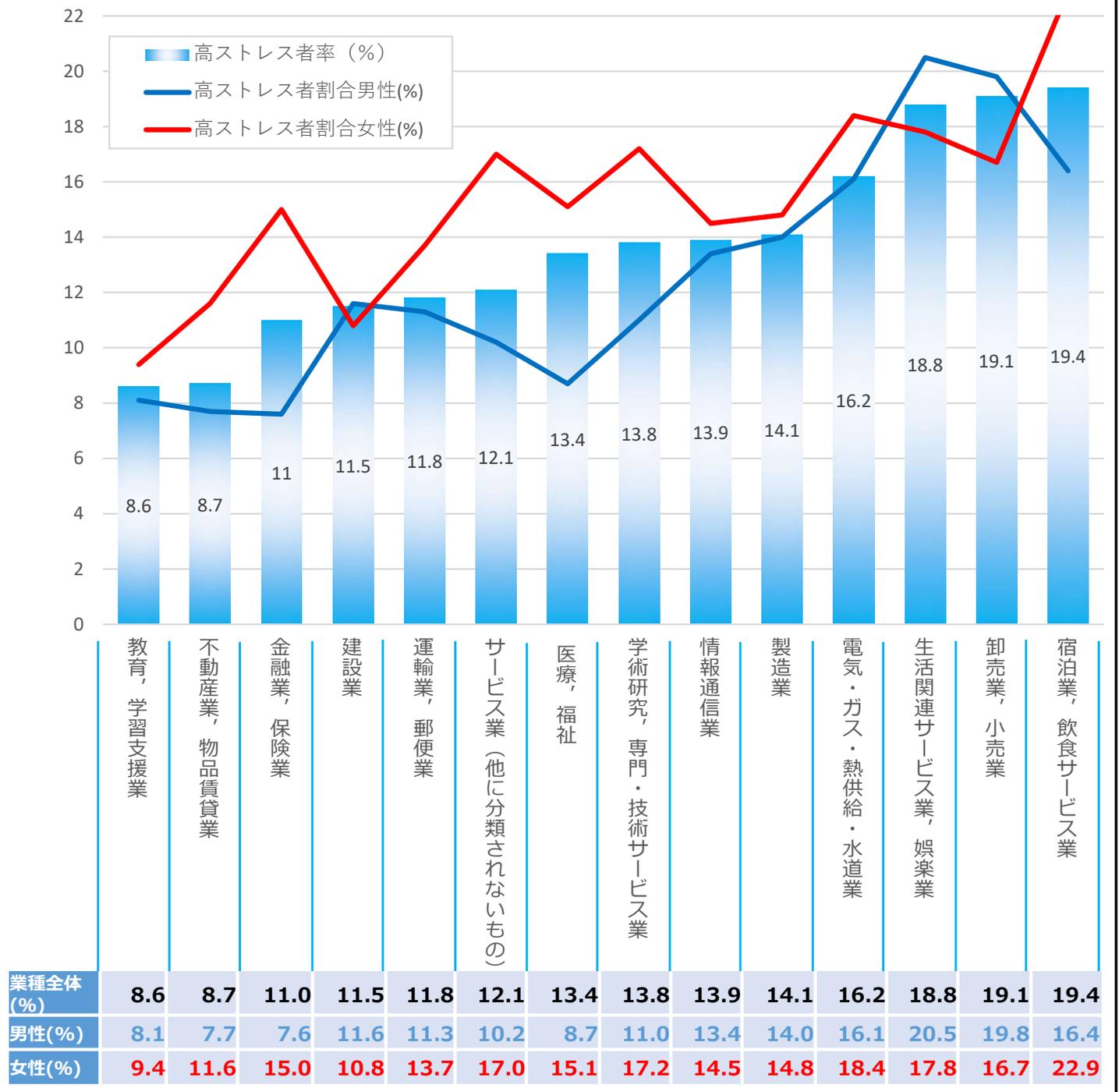




4.業種別高ストレス者割合

※業種分類は日本標準産業分類を使用

- ▶ 高ストレス者割合が一番高いのは「宿泊業、飲食サービス業」であった一方、高ストレス者割合が一番低いのは「教育、学習支援業」であった。
- ▶ 「宿泊業、飲食サービス業」「卸売業、小売業」「生活関連サービス業、娯楽業」は、2年連続して最も高ストレス者割合の高い3業種となった。
- ▶ 「金融業、保険業」は、男女間の高ストレス者割合の差が最も大きかった。



(注)本調査はデータ利用の許可を頂いた団体及び企業のデータのみ分析対象としています